（別紙様式３）

令和４年３月３１日

研究開発完了報告書

文部科学省初等中等教育局長　殿

住所　　福井県福井市大手３丁目１７－１
管理機関名　福井県教育庁
代表者名　　豊北　欽一

令和３年度地域との協働による高等学校教育改革推進事業に係る研究開発完了報告書を，下記により提出します。

記

１　事業の実施期間

２０２１年４月１日（契約締結日）～　２０２２年３月３１日

２　指定校名・類型

学校名　　福井県立鯖江高等学校
学校長名　浅井　裕規
類型　　地域魅力化型

３　研究開発名

鯖江型高校教育「オールＳＡＢＡＥ」の構築のもと，持続可能な地域社会を形成する市民の育成

４　研究開発概要

本校は平成２９年度より，鯖江市役所との協働で「鯖江市デジタルパンフレット」を作成するなど，「総合的な学習の時間」だけでなく，数学や地歴公民科，理科，家庭科，芸術科音楽をはじめとする全教科で地域教材を活用した授業開発を行い，一定の成果を上げることができた。それに伴い市役所・ＮＰＯ・同窓会などの市民との連携を強化し，これまでに様々な取組みを行ってきた。

これらの活動をもとにして，本事業の地域魅力化型への参加を申請し，令和元年度に本事業の指定を受けることとなった。本事業により地元鯖江市に深く根差した地方団体と本校との結びつきをさらに強め，地域と協働する高校教育のモデル，つまり鯖江型高校教育「オールＳＡＢＡＥ」を構築し，地域資源を活用した全科目・教科でのカリキュラム開発・授業実践を全国へ発信するよう，取り組んできた。

その取組みの一環として，令和元年６月に鯖江市，鯖江商工会議所，鯖江高校で三者連携協定を結び，本校の教育活動に地域の方々に深く関わっていただける体制を作ることができた。この連携により，地域から様々な方に教育活動に参加していただくことができ，より広く，より深い

教育活動を行うことが可能となった。

これらのことを踏まえ本研究開発では令和元年度に引き続き，①市民との協働による学びを促進し持続可能な地域社会を形成する市民を育成する，②市民との協働による学びにより生徒の探究力を育成する，③市民との協働による学びの成果を広く発信し地域の中核としての学校を目指す，という３つの目的を設定した。さらに，育成を目指す地域人材像として，①地域への愛着と貢献意識をもち地域の未来を育てる市民，②地域の伝統や文化を継承し新たなことへのチャレンジ精神をもつ市民，③多様な価値観を共有しあらゆる人々を包摂する社会を形成する市民，④持続可能な地域社会の形成に向け自ら考え行動する市民，という４つを設定した。

このような地域人材を育成するため，①多様な情報を収集し，それをもとに自分で考えをまとめ表現する力，②他者に共感し協調して問題解決を図る力，③目標の達成に向けて計画を立て行動する力，といった３つの具体的能力を育成することを目標に，本研究開発を実施してきた。

５　学校設定教科・科目の開設，教育課程の特例の活用の有無

・学校設定教科・科目　　開設している　　・　　開設していない

・教育課程の特例の活用　　活用している　　・　　活用していない

６　運営指導委員会の体制

氏名	所属・職	備考
佐川　哲也	金沢大学地域創造学類長	地域研究の専門家からの外部評価
田中　謙次	福井経済同友会人づくり委員会副委員長	地元経済界からの外部評価
田畑　雅人	鯖江市総務部長	地元行政からの外部評価
澤　和広	鯖江市中学校長会長	地元中学校からの外部評価
齋藤　多久馬	福井県社会福祉協議会前副会長	地元関係団体からの外部評価

７　高等学校と地域との協働によるコンソーシアムの体制

機関名	機関の代表者
鯖江市役所	佐々木勝久
福井経済同友会	江守康昌・林正博
金沢大学地域創造学類	佐川哲也
福井大学教職大学院	松木健一
福井県立大学	進士五十八
鯖江市中学校長会	澤和広
福井新聞社	吉田真士
NPO 法人エルコミュニティ	竹部美樹
鯖江高校同窓会	久保田治裕
福井県教育委員会	豊北欽一

８　カリキュラム開発専門家，海外交流アドバイザー，地域協働学習支援員

分類	氏名	所属・職	雇用形態
カリキュラム開発専門家	木村　優	福井大学教職員大学准教授	雇用関係なし
海外交流アドバイザー			
地域協働学習支援員	竹部　美樹	ＮＰＯ法人エルコミュニティ代表	雇用関係なし

９　管理機関の取組・支援実績

（１）実施日程

業務項目	実施日程											
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
コンソーシアムとの連携	2		1	5			4	3	2		1	2

（２）実績の説明

令和元年度に鯖江市・鯖江商工会議所・鯖江高等学校で三者連携協定を締結しており，教育活動の様々な場面でサポートしていただいている。また必要に応じて打ち合わせを行い，連携を密にとっている。また鯖江市や鯖江商工会議所を通じて，別の団体も紹介していただき，本校の教育活動に協力していただいた。

また令和２年度には仁愛大学と新たに連携協定を結び，本校の探究活動に深く関わっていただき，本年度は何度も大学の教員に探究活動の指導をしていただき，充実した探究活動を行うことができた。また仁愛大学を通して他校との交流も行うことができるようになり，今年度は他校の生徒の刺激を受けながら探究活動が行え，多くの人に対して研究発表を行うことができた。

具体的な活動としては下記のものがあげられる。

４月　　鯖江市ＳＤＧｓ推進センター，丹南ケーブルテレビとの打合せ

普通科２年生の総合的な探究の時間のテーマ「鯖江市ＳＤＧｓプロジェクト」の取組みへの協力体制や支援の仕方などについて，打ち合わせを行った。

ＳＤＧｓ推進センターには鯖江市のＳＤＧｓの取組みについて講演を依頼し，継続的に生徒の探究活動に関わってもらうことを確認した。

丹南ケーブルテレビには，生徒が企画するＳＤＧｓ啓発動画の作成に関して，指導や助言とともに，動画作成の技術的な面のサポートをしていただくことを確認した。

４月　　仁愛大学との打合せ

生徒の探究活動の指導をしていただくために，各学年・学科に合わせた運営の方法などについて協議し，年間を通して本校の探究活動を全面的にサポートしていただくことを確認した。

４月３０日には探究科１年で，５月６日には探究科２年で探究活動について，大学の教員に来校していただき，特別授業を実施していただいた。

６月　　ＳＤＧｓ講演会の実施

昨年度の第２回運営指導委員会で話題にあがった環境活動家の露木志奈氏について，同氏をお招きして，２年生の探究活動の役に立つように，講演会を行った。

７月　　教員研修会の実施

例年実施している講演会について，今年度は地元で活躍している株式会社「わどう」代表取締役の山岸充氏を講師として，鯖江市の取組みや，地元企業の活動などについて指導していただく教員研修を実施した。

７月　　鯖江市の企業との交流会の実施

昨年度に引き続き，探究科１年生が鯖江市内で活躍する企業の方々と直接交流する研修会を実施するため，鯖江商工会議所と連絡・調整・運営を行った。

また鯖江商工会議所と鯖江高校との今後の協力体制や支援の仕方についても打ち合わせを行った。

７月　　福井新聞社の記者による特別授業の実施

普通科１年生の総合的な探究の時間で実施する「新聞記事の作成」について，今年度も福井新聞社の記者を講師として特別授業を計画し，実施した。

７月　　ワーク・ライフ・バランス研修会の実施

株式会社 For Smile 代表取締役の加藤裕美氏を講師として，ワーク・ライフ・バランス研修会を計画・運営した。本校からは希望する９名の生徒が参加した。

７月　　明治大学との打合せ

明治大学の創始者の一人が鯖江市出身というつながりで，鯖江市は明治大学と連携協定を締結しており，明治大学と鯖江高校が協働で活動できないかを検討するため，明治大学，鯖江市，鯖江高等学校をオンラインで接続し，打ち合わせを行った。今後も引き続き打ち合わせを実施していくことを確認した。

１０月　株式会社「わどう」山岸充氏との打合せ

山岸氏の紹介で「マイプロジェクト」の説明および生徒の参加についての依頼を受け，今後の活動方法などについて打ち合わせを行った。

１０月　鯖江市との打合せ

地域との協働による高等学校教育改革推進事業が今年度で終了するにあたり，今後の鯖江市との協力体制について打ち合わせを行った。今後はこれまで以上に連携を密にとり，協力していくことを確認した。

１０月　鯖江市ＳＤＧｓ探究プロジェクトの実施

普通科２年生の「鯖江市ＳＤＧｓ探究プロジェクト」の実施にあたって，鯖江市，鯖江商工会議所をはじめ，鯖江市内の多くの企業，団体に協力をしていただき，生徒が関係者と直接交流をしてインタビューや企業訪問ができるように，企画・運営を行った。

１０月　仁愛大学との打合せ

現在の探究活動の状況や，今後の進め方や発表会の実施などについて，オンラインで打ち合わせを行った。

１１月　探究科２年中間発表会の実施

探究科２年中間発表会について，仁愛大学から２名の助言者に来校していただき，中間発表会を行った。なお，この発表会は公開授業として，他校の教員にも参加していただき，意見や感想をいただいた。

１１月　普通科２年中間発表会の実施

普通科２年中間発表会について，鯖江市，鯖江商工会議所から６名の助言者に来校していただき，中間発表会を行った。なお，この発表会は地域との協働による高等

学校推進事業の公開授業として，他校の教員にも参加していただき，意見や感想をいただいた。

１１月　第１回運営指導委員会

運営指導委員５名に来校していただき，実施した。普通科２年中間発表会の参観した後，今年度のこれまでの取組みについて協議をし，運営指導委員および県教育委員会から指導・助言をいただいた.

１２月　福井テレビとの打合せ

鯖江市の仲介により，福井テレビが本校の探究活動を取り上げ，環境問題に関する番組を制作することとなった。現在，普通科２年生が取り組んでいる探究活動について，今後の活動方針などについて検討した。

１２月　眼育トレーニング研修会の実施

鯖江市が取り組んでいる眼育について，関係者に来校していただき，普通科２年生で眼育を取り上げているグループに対してビジョントレーニングなどを体験する研修会を実施した。

２月　　ＳＤＧｓ推進センターとの打合せ

ＳＤＧｓ推進センターと今後の活動などについて打ち合わせを行った。

３月　　鯖江市との打合せ

鯖江市と今後の活動などについて打ち合わせを行った。

３月　　鯖江市ＳＤＧｓ探究プロジェクト実践活動報告会の実施

普通科２年生「鯖江市ＳＤＧｓ探究プロジェクト」について，鯖江市，鯖江商工会議所から８名の助言者に来校していただき，実践活動報告会を行った。なお，この報告会は地域との協働による高等学校推進事業の公開授業として，他校の教員にも参加していただき，意見や感想をいただいた。

通年　　関係者と生徒の交流について

地域との連携に関して，関係団体や企業との連絡・調整，運営をした。主な活動内容は，探究活動に関する企業の協力，企業訪問，インタビューなど。

１０　研究開発の実績

（１）実施日程

業務項目	実施日程											
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
地域との協働による活動	2	1	2	5		1	1	4	3		2	1

（２）実績の説明

・研究開発の内容や地域課題研究の内容について

①探究科１年での科目「探究」の活動について

昨年度の探究科１年の活動実績を踏まえ，今年度は内容を一部変更して実施した。

まず，仁愛大学との連携により，４月３０日に仁愛大学の西出和彦教授にお越しいただき，探究研究とはどのようなものかを詳しく説明していただき，講義の後，「エッグドロップ」に取り組ませ，探究活動の簡単な実践を体験させた。次に５月７日には西出教授より「問いの立て方」について講義をしていただき，実際に探究活動に取り掛かるこ

とができるよう，指導していただいた。

１学期の活動は昨年度と同様，まず探究活動の基礎的なスキルの習得および意欲の向上を目指して取り組んだ。その後，前年度からの課題として，「１年次から問いの設定，調査，分析，プレゼンテーションといった一連の流れを体験させた方がよい」ということがあり，ミニ課題研究に取りかかった。

７月１５日には，昨年度と同様に「鯖江市の企業との交流会」を実施し，身近な鯖江市について知り，直接企業の担当者と交流することで理解を深め，今後の探究活動に活かしていけるようにした。

２学期からはそれぞれのテーマに合わせて探究活動を進めた。テーマや内容に合わせて鯖江市や商工会議所を通じて，地元企業や団体の協力を得て，それぞれの探究活動を行ってきた。

１２月１７日には，今年度もエコネットさばえから，カードゲーム「2030ＳＤＧｓ」の公認ファシリテーターの楳原秀典氏に着ていただき，カードゲームを通して，自分の住む社会や生活に置き換えて考え，追究したい課題を見つけさせる活動を行い，ＳＤＧｓを意識した探究活動ができるようにした。

３学期末には昨年度と同様に，探究科合宿を行い，その中で今回のミニ探究研究の発表会を実施する予定である。

②普通科１年での「総合的な探究の時間」の活動について

基本的に昨年度実施してきたカリキュラムを継承し，本年度も「新聞記事づくり」を通して，各自の興味関心および希望進路に応じた探究活動を行った。

まず１学期は探究科と同様，探究活動の基礎的なスキルの習得および意欲の向上を目指して取り組んできた。その後，昨年度は１１月に実施した福井新聞社の記者による特別授業を，今年度は前倒しして７月に実施をして，早い段階で探究活動に必要な情報の取り扱い方や記事の書き方などを指導していただいた。

２学期は最初から新聞記事づくりに取り掛かることができ，昨年度よりも時間をかけて活動を進めることができた。まずは各自の興味関心，コースに応じた希望進路をもとにテーマを検討し，様々な情報を収集や調査を行い，それらを集約して新聞記事としてまとめ，他の生徒に発表することで，課題研究の全体の流れを実際に体験できるようにしている。この活動では，必ずテーマに関係する方に直接インタビューする活動をいれており，鯖江市，鯖江商工会議所およびコンソーシアムに協力をしていただいてインタビューに応じていただける方を紹介していただき，多くの生徒が自分の希望する方々に直接インタビューを行うことができた。なおインタビューをしていただける方の紹介はするが，日時や内容などの交渉は生徒自身に行わせて，インタビューなども含めて，自分自身で新聞記事を完成させるように取り組ませた。インタビューをしていただいた方の中には，完成した新聞記事をぜひ送ってほしいとの依頼もあり，この活動に強い関心をもって協力をしていただいた。

③探究科２年での科目「探究」の活動について

探究科２年生は今年度が一期生であり，初めての２単位での探究活動に対応できるよう，試行錯誤しながら計画を進めていった。

まず，探究科としての活動を充実させるため，「探究」の時間には国語，社会，数学，理科，英語から１名ずつ計５名の専属の教員を配置し，各生徒の研究テーマを考慮して各教員に生徒を割り振って，年間をとおして５名の教員が主導して探究活動を行ってき

た。それぞれの活動内容に合わせて，各教員でコンソーシアムなどと連携を取り，共同研究，インタビュー，企業訪問などを随時実施してきた。

全体の活動では，仁愛大学に協力をしていただき，特別授業や他校を交えての研修会の企画，校内発表会での助言者など，様々な場面で生徒の活動を指導していただいた。

④普通科２年での「総合的な探究の時間」の活動について

今年度もコロナウィルス感染の影響はあったものの，昨年度より活動の制限が緩和されたため，新たに年間の計画を見直し，今年度は鯖江市が主に取り組んでいるＳＤＧｓの６つのテーマに沿って，興味関心のある生徒同士でグループを組み，探究学習を実施する「鯖江市ＳＤＧｓ探究プロジェクト」を企画した。

各テーマ固有の現状・課題について調べ，それを解決するための手段について，鯖江市や地域企業へのインタビューなどを通して，問題を自分事としてとらえ，課題について探究していった。

まず４月３０日にさばえＳＤＧｓ推進センターと丹南ケーブルテレビの方に来ていただき，鯖江市のＳＤＧｓの取組みの説明と，ＳＤＧｓを推進する動画の作成について説明をしていただき，１年間の活動内容を生徒に認識させ，活動をスタートさせた。

１０月には協力していただいた団体，企業の方々に来ていただいたり，各企業に直接訪問してインタビュー活動を一斉に行う行事を企画した。

１１月には中間発表会を実施し，鯖江市，さばえＳＤＧｓ推進センターから助言者として来ていただき，評価・ご助言をいただいた。

２月には近隣の惜陰小学校との交流会を実施し，環境問題をテーマにしたグループが，小学校のこどもたちにＳＤＧｓについてプレゼンテーションを行った。

また，希望者による動画作成チームをつくり，丹南ケーブルテレビの協力を得て，鯖江市のＳＤＧｓ推進活動をアピールする PR 動画の作成を行った。

⑤普通科３年での「総合的な探究の時間」の活動について

３年次では，これまでの探究活動の集大成として，プレゼンテーション能力を高めることを主な目的とした探究活動を行った。１年次から総合的な探究の時間で，地域と協働した活動など，様々な探究活動をおこない，その成果を発表してきた。３年次ではこれまでの探究活動の経験をもとに，各個人の希望進路にあわせて，各自でテーマを設定し，より効果的なプレゼンテーションが行えるよう，発表方法も自由にできるようにした。

内容が多岐にわたり，それをクラス内で発表することで，情報が共有され，他の生徒たちにも影響を与えることができた。

⑥総合的な探究の時間以外での地域人材活用について

今年度も新型コロナウィルスの影響により，昨年度から計画していた外部人材を活用した授業ができない状況が続き，改めて可能な活動を模索してきた。今年度の地域人材を活用した授業などは下記のとおりである。

○音楽の授業での人形浄瑠璃体験授業

６月７日に選択音楽を受講する３年生の授業で，鯖江市人形浄瑠璃「近松座」から，大橋國利氏をはじめ団員の方々をお招きして，昨年度に引き続き人形浄瑠璃の体験活動を行った。

○人形浄瑠璃発表会

６月７日に引き続き，何度か人形浄瑠璃の体験従業を行い，今回その成果を発表した。地元の伝統文化を直接体験し，発表できたことで，生徒は達成感を感じたとともに，今

後の音楽活動にも生かしていきたいという意欲もわいていた。

〇エシカル消費特別授業

１１月１０日に探究科２年の英語の授業で，鯖江市役所から山田眞美子氏と森川瑞代氏をお招きして，エシカル消費について特別授業を行った。英語の教科書“What Is the True Meaning of Mottainai?”という単元で学んだことに対する考えを深めると同時に，世界規模の問題と身近な問題のつながりについて考え，教科書の内容が現在実社会でどのような広がりをみせているかについて学んだ。

〇日華化学特別授業

１１月１７日に３年生の化学の授業で，日華化学株式会社より松田光夫氏をお招きして「高分子」に関する特別授業を行った。化学の教科書で扱われている高分子が，身近なものに応用されている実例をあげ，その特徴などを，詳しく説明をしていただいた。

〇放射線特別授業

１２月７日に３年の生物の授業で，環境教育の一つとして「放射線」に関する特別授業を行った。日本原子力発電株式会社より佐藤壌氏と池田龍子氏をお招きし，放射線について正しい知識と興味を持てるように，実験と観察を行いながら説明していただいた。

〇消費者教育 出前講座

２月２１日に探究科１年生の現代社会および家庭基礎の授業で，鯖江市消費生活センターより清水優子氏，鯖江市市民相談課より山田眞美子氏をお招きして，消費者教育出前講座を行った。消費にまつわる様々な問題点や相談内容などを教えていただき，今後，様々なトラブルに巻き込まれないよう指導やアドバイスをいただいた。

〇その他，コロナウィルス感染拡大の影響により中止になった授業

・生分解性放射線実験樹脂を利用した授業（３年生物）

・福井銀行による資産形成や利率について（３年数学）

⑦授業改善のための教員研修会について

７月１日に株式会社「わどう」代表取締役の山岸充氏を講師としてお招きし，教員研修を行った。昨年度に引き続き，「生徒たちに地域との協働活動を指導していくためには，教員自身が地域についてもっと知るべきである」という考えで，鯖江市の現状や様々な取組みなどを詳しく説明していただき，教員全体の地域協働に対する意識を高めた。

・地域との協働による探究的な学びを実現する学習内容の教育課程内における位置付け（各教科・科目や総合的な学習（探究）の時間，学校設定教科・科目等）

地域人材や地域資源などを活用した探究活動を，各学年での「総合的な探究の時間」で計画的に実施した。

また，各教科での内容と必要に応じて，地域との協働により特別授業などを実施した。

・地域との協働による探究的な学びを取り入れた各科目等における学習を相互に関連させ，教科等横断的な学習とする取組みについて

探究科２年次で探究を取り入れた教科の授業を実施し，総合的な探究の時間や教科を横断した授業も実施した。

・地域との協働による探究的な学びを実現するためのカリキュラム・マネジメントの推進体制

昨年度より校務分掌として「探究研究部」を新設し，地域協働活動・探究活動・学力向上・教員研修などの業務を教員６名で担当した。

・学校全体の研究開発体制について（教師の役割，それを支援する体制について）

地域協働推進委員会（校長，教頭，探究研究部長，教務部長，進路指導部長，各教科主任，定時制教頭）を設置し，探究研究部を中心として全教員で研究開発を推進している。

・学校長の下で，研究開発の進捗管理を行い，定期的な確認や成果の検証・評価等を通じ，計画・方法を改善していく仕組みについて

地域協働推進委員会，運営指導委員会などでの進捗状況を把握する。

探究研究部との情報共有を行う。

・カリキュラム開発に対するコンソーシアムにおける取組みについて

鯖江市・鯖江商工会議所・鯖江高校相互連携協定の連絡協議会での進捗状況の確認および指導・助言・提案などを行う。また，各行事での企画・運営に関して指導・助言などをいただく。

・運営指導委員会等，取組みに対する指導助言等に関する専門家からの支援について

運営指導委員会を２回実施，指導・助言を受ける

・類型毎の趣旨に応じた取組みについて（地域魅力化型の活動として）

音楽の授業で人形浄瑠璃の体験をし，鯖江の歴史や文化を理解した。

鯖江市の企業との交流会を実施し，地元企業の取組みや魅力を知った。

鯖江市ＳＤＧｓ探究プロジェクトを通して，地元企業の取組みや魅力を知った。

日華化学特別授業を実施し，地元企業での取組みや魅力を知った。

眼育トレーニングの体験を通して，めがねのまち鯖江の取組みを知った。

・成果の普及方法・実績について

地域協働ニュース第１号～第２０号を作成した。

広報誌を作成し，鯖江市の中学生に配布し，鯖江市役所にも置かせていただいた。

各行事でのマスコミへの取材要請，及び対応を行った。

１１　目標の進捗状況，成果，評価

本事業の成果目標として，「表現力」「協調力」「行動力」の３つの力を，生徒が習得すべき能力とする。自己評価および他者評価を行い，「卒業時に３つの能力が全て習得できた生徒の割合を全校生徒数の８５％以上とする」と設定した。「高校魅力化評価システム」のアンケートの結果から次のようなことがわかった。

	アンケート項目	全校生徒の割合の推移(%)				２年生の割合(%)	
		2019 年	2020 年	2021 年	前年度との差	2021 年度	1 年次との差
表現力	自分の考えをはっきり相手に伝えることができる	71.8	68.8	64.6	-4.2	64.8	0.35
	友達の前で自分の意見を発表することは得意だ	59.8	57.5	58.4	0.9	59.5	6.15
協調力	自分とは異なる意見や価値を尊重することができる	89.7	90.2	93.1	2.9	91.1	4.16
	相手の意見を丁寧に聞くことができる	91.1	90.2	90.2	0	88.7	0.13
	共同作業だと自分の力が発揮できる	72.6	72.4	67.7	-4.7	66.4	-2.77

行動力	目標を設定し，確実に行動することができる	65.1	63.0	65.3	2.3	66.0	8.68
	自分で計画を立てて行動することができる	69.2	64.2	64.1	-0.1	63.2	6.24
	自主的に調べものや取材を行う	60.4	58.3	61.2	2.9	64.0	14.96
	学校以外のいろいろな人に話を聞きに行く	29.2	30.9	34.7	3.8	40.9	13.22

○ 最終目標である「卒業時に３つの能力が全て習得できた生徒の割合を全校生徒数の８５％以上とする」には到達できなかった。３年間の推移をみると，全体の割合はあまり変化しておらず，鯖江高校では本事業以前から地域協働の取組みが行われており，これが安定した数値として表れていると考えられる。

○ 全体の割合はあまり変化が見られないが，個人の伸びをみると，昨年度同様２年生の１年次からの伸びが顕著であり，特に行動力の２項目では２桁の伸び率を示している。これは３年間の探究活動の中で，最も重要な２年次の探究活動の成果の表れであり，地域と協働した活動が充実し，生徒が自ら進んで意欲的に探究活動に取り組んできたことの表れであると考える。

＜添付資料＞目標設定シート

１２　次年度以降の課題及び改善点

○ 本事業は今年度で終了するが，事業終了後も地域との連携のよりよい在り方について，今後も検討していく必要がある。鯖江市・鯖江商工会議所・鯖江高校との三者連携協定，および仁愛大学との高大連携・高大接続に関する連携協定は今後も継続していくこととなっており，来年度に向けて，それぞれですでに協議を進めている。

○ 来年度，全学年で７クラスとなり生徒数がさらに増加する。そのため全員が一斉に探究活動することがさらに難しくなる。現在のカリキュラムを見直し，現在よりも活動しやすい内容や方法を検討し，改善できる部分は改善していく必要がある。

○ 総合的な探究の時間の３年間のカリキュラムは一通り確立してきたが，これまではコロナウィルスの影響もあり活動に制限があったので，今後は状況がさらに変化していく。今後はその変化や状況に応じて，調整していかなければならない。

○ 年度が変われば学校も地域の人も替わるため，誰もが安定した運営ができるように，連携方法の確立やマニュアルの作成などをしていく必要がある。

【担当者】

担当課	福井県教育庁高校教育課	ＴＥＬ	0776-20-0570
氏　名	吉田　幸人	ＦＡＸ	0776-20-0669
職　名	指導主事	e-mail	y-yoshida-tr@pref.fukui.lg.jp